

6. 特別教育プログラム

(1) 経済学・法学副専攻プログラム

2004 年度より、法学部と経済学部の間で「副専攻プログラム」が設置された。本プログラムの意義は、「社会科学の総合大学」を自負してきた一橋大学の特徴を活かし、それぞれの学部の学生が、相互に他学部の学問体系を修得することを奨励しようとするものである。「副専攻プログラム」の導入によって、経済学部と法学部双方の学生にとって他学部の学問体系を修得するために必要とされる最低要件が明確になり、他学部の専門領域をより効率的に修得することができると期待される。2 年次以降、法学部の学生の場合は「経済学副専攻プログラム」を履修する。経済学部の学生の場合は「法学副専攻プログラム」を履修するが、「法学副専攻プログラム」と「国際関係副専攻プログラム」の2種類がある。それぞれのプログラムの修了要件を満たしていれば、原則として卒業時に、卒業証明書や学位記とは別に「副専攻プログラム修了証明書」を発行する。

2014 年度から 2023 年度までの 10 年間の実績は、「法学副専攻プログラム」または「国際関係副専攻プログラム」を修了した経済学部生は 84 名である一方、「経済学副専攻プログラム」を修了した法学部生は 86 名である。今後更なる履修・修了学生数の増加が期待される。

表Ⅱ-6: 経済学・法学副専攻プログラム修了者数

	法学副専攻プログラム (経済学部生対象)	国際関係副専攻プログラム (経済学部生対象)	経済学副専攻プログラム (法学部生対象)
2014 年度	13	7	21
2015 年度	3	0	12
2016 年度	8	4	14
2017 年度	4	1	9
2018 年度	2	3	8
2019 年度	2	2	3
2020 年度	7	1	5
2021 年度	2	5	10
2022 年度	6	4	1
2023 年度	5	5	3

(2) グローバル・リーダーズ・プログラム

2012 年度に文部科学省の「グローバル人材育成推進事業(タイプ B, 特色型)」の事業拠点に採択されたことを受け、経済学部では 2013 年 4 月より「グローバル・リーダーズ・プログラム」を本格始動した。

「グローバル・リーダーズ・プログラム」は、グローバル化の進む社会経済システムの中で、経済学とその関連分野における専門的な知見と、豊かな教養に支えられた幅広い視野を持ち、的確な現実感覚と創造性を備え、自ら考える力を持って課題の発見と解決に努め、日本語と英語の両方で優れたコミュニケーション能力を用いてビジネス・公共政策・学術研究などの現場で活躍するリーダーの育成を目指す。それを支えるのは、経済学を基礎から体系的に修得できるカリキュラムと、海外の大学で博士学位を取得し、また海外で豊富な教育経験を持つ多数の教員である。英語スキル科目や英語で開講される経済学部専門科目の履修、短期海外調査や半年から 1 年間の長期留学により、英語のコミュニケーション能力に加えて、深い専門知識、グローバル経済の「現場感覚」、問題解決のための政策提言能力を養成する。この目的を達成するため、経済学部の学生に、以下のような学びの機

会(「グローバル・リーダーズ・カリキュラム」)を提供している。

1. 経済学の入門・基礎・発展を段階的・体系的に修得できるカリキュラムを提供し、経済学の専門知識と分析力を確実に身に付けさせる。
2. 経済学の基礎を日本語で教授する科目と英語で教授する科目(外国人教員担当)の両方を提供する。
3. 多くの経済学部専門科目を英語で開講する。
4. 大学共通の英語コミュニケーション・スキル養成科目のほかに、経済学部独自の少人数クラスによる学術英語スキル養成科目を提供する。
5. 外国人教員による、英語コミュニケーション・スキルの基礎ゼミを提供する。
6. 外国人教員または英語の堪能な日本人教員による、経済学の基礎ゼミを英語で提供する。
7. アジアの新興国や欧州への短期海外調査の機会を提供する。
8. 海外の主要大学への長期留学(6ヶ月～1年間)の機会を提供する。
9. 高度な経済学の内容を英語で教授する大学院との共同開講科目を提供し、大学院レベルの学術英語スキル養成科目も提供する。

このプログラムは、全学部生を対象とする「グローバル・リーダーズ・カリキュラム」と、選抜された学生のみを対象とする「グローバル・リーダーズ選抜クラス」から構成される。前者は下記の短期海外調査や経済学部独自の英語スキルコース、英語開講の基礎ゼミを含む。2014年度以降、200番台から400番台まで毎年50前後の専門科目が英語で開講されている。200番台コア科目の一部は、英語ネイティブの外国人教員によって英語でも開講された。また、欧米諸国を中心に学生交流協定を締結し学生の国際交流を行っている。後者については、大学1年次終了時点において、書類審査および面接により、英語力、学業成績、学習意欲・動機などを基準に15名程度の学生を毎年選抜し、「グローバル・リーダーズ選抜クラス」を形成する。選抜クラスの学生には、上記の「グローバル・リーダーズ・カリキュラム」のうち、経済学部独自の少人数クラスによる学術英語スキル養成科目、外国人教員による英語コミュニケーション・スキルの基礎ゼミ、および外国人教員または英語の堪能な日本人教員による経済学の基礎ゼミの履修を促し、短期海外調査にも優先的に参加することを可能にする。さらに、長期留学実現に向けて、グローバル・オフィスのスタッフから、きめ細かい支援を提供する。学部卒業までに経済学部専門科目の卒業要件単位の6割以上を英語による授業で修得するなど、プログラムの要件をすべて満たした学生には、Honors Degree(優等学位)として「グローバル・リーダーズ・プログラム修了証書」を授与する。

選抜クラスには、毎年15名程度が選抜される。これまで合計139名が選拔され、2024年度中に第12期生が選抜される。いずれの期も、2年次に短期海外調査のための基礎ゼミを履修し、夏学期には事前調査と研究発表の準備を行った上で、EU諸国(これまでにドイツ、デンマーク、フランス、ベルギー、スイス)あるいは中国で国際機関・政府機関・企業等の訪問調査と現地の大学生との合同研究発表・討論を行い、帰国後には和文と英文の報告書を作成し、発表会も経て、経済学研究科のウェブサイト公開した。

なお、2016年度末に文部科学省の支援は終了したが、2017年度からは本学の自主財源(寄附金等を含む)で継続されている。

(3) 社会人博士課程 EBPM プログラム

本研究科は経済研究所と協力して、2021年度に大学院博士後期課程の社会人AO入試合格・入学者を対象として、EBPMプログラムを開設した。これは、特に中央官庁や地方自治体、政府系機関、シンクタンク等に所属する修士号を持つ社会人院生に、EBPM(Evidence-based policy making: 証拠に基づく政策立案)を実行する

ための理論的な基盤と高度な実証(計量)分析のスキルを身に付けさせ、関係する政策の評価と立案に活用してもらうことを目的として設置された特別プログラムである。このプログラムの参加者には「EBPM 概論」というオンラインの特別講義(必修・2 単位)が提供され、また「EBPM ワークショップ」に参加して年 1 回以上研究報告を行うことが求められるが、日常業務と研究を両立できる柔軟な教育・指導体制がこのプログラムの特徴である。プログラム修了時には、博士学位(経済学)とともに EBPM プログラム修了証書が授与される。

7. オープンキャンパス

「一橋大学はどのような大学なのか」を高校生に紹介するため、大学全体の取り組みとしてオープンキャンパスが 2001 年度より企画されている。2023 年度は 8 月 6 日(日)～19 日(土)に、2024 年度は 7 月 29 日(月)～8 月 18 日(日)にオンライン及び来場型の併用で開催された。学長による大学紹介と、各学部に分かれた個別の学部説明会を開催した。

2024 年度は、経済学部では来場型企画として、8 月 4 日(日)に学生相談会(事前予約制)を開催した。前半を全体相談会、後半を個別相談会とし、担当教員が入学希望者からの質疑応答に対応した。オンライン企画として、入学後の大学生活の実感を具体的にイメージしてもらえよう、教員による学部紹介や模擬講義と共に現役学生を交えたパネル討論を公開した。現役の大学生を中心としたディスカッションは、本学受験のための準備や大学入学後のイメージを学生の立場から入学志望者に具体的に伝えるものとして参加者から特に好評であった。今後も実り多いオープンキャンパスとなるよう改善を進める予定である。これらの動画を含めた詳しい情報については、経済学部ホームページから閲覧できる。

8. 教員スタッフの充実について

本研究科の教員スタッフの構成に関して、近年の進展としては、女性スタッフ・外国人教員の拡充を挙げることができる。2024 年 12 月現在で 57 名中(うち特任教授・特任准教授・特任講師は 8 名)、8 名の女性スタッフ、6 名の外国人スタッフが勤務している。また、現在、若手教員 6 名がテニユアトラック講師として雇用されている。